

岡山県高等学校体育連盟ボクシング専門部
大会実施における感染予防ガイドライン

1. 全般的な事項

- (1) 感染防止のため、主催者が実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを適切な場所（競技会の受付場所等）に掲示する
- (2) 各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認する
- (3) 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、参加当日に参加者より提出を求めた書面（チェック票・行動記録）について、保存期間（少なくとも1ヶ月以上）を定めて保存しておく
- (4) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発生した場合は、大会事務局に対して速やかに濃厚接触者の有無等を報告する

2. 競技会参加募集時の対応

- (1) 参加者が以下の事項に該当する場合は、参加を認めない。
 - ① 体調が良くない場合
（発熱、咳、咽頭痛、頭痛、味覚・嗅覚障害、下痢、嘔吐などがある場合）
 - ② 感染者若しくは感染が強く疑われる人と同居しているか濃厚接触がある場合
 - ③ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- (2) マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用する）
- (3) こまめな手洗いや消毒を実施する。
- (4) 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2m以上）を確保する。
- (5) 競技会中に大きな声での会話、応援（セカンドの指示を除く）等をしない。
- (6) 減量を行う場合の注意事項
 - ① 週1kg、1日150g程度を目安の減量をおこなう。
 - ② 1ヶ月で体重の5パーセント程度までの減量を目安とし10%を超える減量を行わない。

3. 参加受付、健診計量時の対応

- (1) 受付窓口には、手指消毒剤を設置する。
- (2) 健診会場に入る前に検温を行う。発熱がある場合や咳・咽頭痛などの症状がある場合は入場させない。
- (3) 選手は計量や本人確認等、致し方ない場面以外ではマスクを着用したまま健診計量を受ける。
- (4) 人と人とが対面する場所での会話は最小限に抑える。
- (5) 受付は参加者の距離が詰まることがないように、健診の進行具合を見ながら適切なタイミングで少人数ずつ行なう。
- (6) 参加者は以下の事項を記載した書面を提出する。

- ① 氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）
- ② 当日朝の体温
- ③ 競技会前2週間における以下の事項の有無
 - (ア) 平熱を超える発熱（概ね37度5分以上）
 - (イ) 咳、のどの痛みなどの風邪症状
 - (ウ) だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - (エ) 嗅覚や味覚の異常
 - (オ) 体が重く感じる、疲れやすいなどの症状
 - (カ) 新型コロナウイルス感染症陽性者とされた者との濃厚接触の有無
 - (キ) 感染者若しくは感染が強く疑われる人との同居か濃厚接触歴
 - (ク) 政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされる国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触
- (7) 健診時ドクターはマスクを着用する。口腔内の診察は省略する。手指や聴診器、打鍵機をアルコール性消毒薬で消毒し、接触感染の予防に努める。
- (8) 受付・点呼、健診補助、計量などに関わるスタッフは、マスクを着用し、選手に対応するたびに手洗いやアルコール性消毒薬で手指を消毒して接触感染予防に努める。

4. 競技会参加者への対応

- (1) マスク等の準備
- (2) 参加者がマスクを準備しているか確認する。
- (3) 参加の受付、着替え、表彰式等の運動・スポーツを行っていない間については、マスクの着用を求める（ウォームアップ間のマスクの着用は、熱中症や呼吸困難のリスクとの兼ね合いになるが、努力義務とする。競技中のマスクの着用は禁止する。）。
- (4) 競技会参加前後の留意事項
 - ① 競技会の前後のミーティングにおいても、三密を避ける。
 - ② ミーティング時は、マスクの着用を義務付ける。
 - ③ 試合後、用具を外す・汗を拭きとるなどの際においても周囲への飛沫拡散を配慮し適切な距離をとる。

5. 競技会主催者が準備すべき事項

- (1) 手洗い場所（トイレ以外）
 - ① 手洗い場には石鹼（ポンプ型）を用意する。固形石鹼は避ける。
 - ② 「手洗いは30秒以上」等、手洗いを奨励する掲示を行う。
 - ③ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する。
 - ④ 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する。
- (2) 更衣室、休憩・待機スペース
 - ① 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける（障がい者の介助

を行う場合を除く)。

- ② 一度に入室する参加者の数を制限する。
- ③ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等)については、時間を決めて、スタッフがこまめに消毒を行う。
- ④ 換気に配慮し換気扇を常に回し、換気用の小窓をあける。
- ⑤ スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをする。

(3) 洗面所(トイレ)

- ① 使用するトイレは指定された場所のみとする。
- ② トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、水洗トイレのレバー等)については、時間を決めて、スタッフがこまめに消毒する。
- ③ トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう掲示する。
- ④ 手洗い場には石鹼(ポンプ型)を用意する。固形石鹼は避ける。
- ⑤ 「手洗いは30秒以上」等、手洗いを奨励する掲示を行う。
- ⑥ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する。

(4) 地域での感染状況によっては無観客試合とする。

(5) 競技会会場

- ① 屋内で競技する場合は、「換気」に注意し、窓を全開にして活動するか、少なくとも1時間に2回以上は換気を行い、換気設備は常時作動する。若しくは競技会会場が換気の悪い密閉空間とならないよう、半屋外の会場で行う。
- ② 競技会場の熱中症対策として空調設備の整った施設で行なうか、定期的に屋根を水で冷却する。

(6) ゴミの廃棄

- ① 鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛る。ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する。
- ② マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹼と流水で手を洗い、手指消毒する。

6. 選手がウォームアップを行う際の留意点

- (1) 試合前の動的ウォームアップ(シャドーボクシングやミット打ち)は、運動強度が高まり呼吸も激しくなるため、十分なスペースを確保するために選手の出場予定時刻などにより場所や時間を指定する。ウォームアップのためのマスボクシングは、管理できない濃厚接触を生む可能性があるため、禁止する。
- (2) シャドーボクシングやミット打ちは、所定のエリア内で行い、他の選手と対面となつて、飛沫感染のリスクを発生させることがないように注意する。
- (3) タオルの共用やドリンクの回し飲みは行わない。
- (4) 試合前のグローブングールームは関係者同士が距離をとれるようにする。

7. 試合を行う際の留意点

- (1) 選手のウォームアップ時間の設定が行いやすく、リング周りの消毒等の時間を確保するために各競技開始時間を15分刻みとするか、3試合おきにセッションを設け

る。

- (2) フェイスシールドは着用せずに、通常のヘッドガードのみで競技を行う。また、競技中のマスクの着用も許可しない
- (3) レフリーのフェイスシールドの着用は、予期せぬ接触など、選手の安全性が担保できない可能性があるため、着用しない。使い捨てのプラスチック（もしくはゴム製の）グローブを着用する。グローブは試合ごとに破棄し、グローブ交換の際に、手洗いもしくはアルコール消毒液で手指消毒を行う。ニュートラルコーナーに、グローブを破棄するためのゴミ箱（ゴミ袋）と、アルコール性の消毒薬を設置する。
- (4) リングサイドに着席する、ジャッジ、DS、リングサイドドクター、関与するスタッフは、エアロゾル飛散による感染のリスクがあるため、マスクもしくはフェイスシールドを着用する。可能な限りリングからの距離をとり、飛沫防止パネルを設置するなどの対策をとる。必要に応じて、アルコール製の消毒液で随時消毒を行う。選手と接触する際には、使い捨てのグローブを着用する。
- (5) セCONDは、マスクもしくはフェイスシールドを着用し、プラスチック（もしくはゴム製の）手袋も着用する。プラスチックグローブは試合ごとに交換し、フェイスシールドはアルコール製消毒液で拭き上げる。
- (6) セCONDがラウンド間の選手対応でタオルによる送風を行うことは、エアロゾルを発生させるため禁止する。
- (7) 選手のラウンド間のうがいの廃液やマウスピースの洗浄後の処理液及びその受け容器は、試合毎に処理、交換を行う。（容器は小型のもので、個別に消毒する。）また担当者もフェイスシールド、マスクや手袋等の感染防止対策を行う。
- (8) セCONDらがFOP（Field of Play）エリア内で使用したプラスチックグローブやフェイスシールドに関しては、FOP エリア外に出る前に外し、FOP エリアの出口に設置したゴミ袋内に処分する。グローブを外した後に、アルコール性消毒液で手指消毒を行う。マスクに関しては、着用したままで良い。
- (9) 試合終了後に相手コーナーへ移動し、コーチとの握手などが慣例的に行われているが、対戦相手意外との身体的接触は、可能な限り避ける。
- (10) グローブ、ヘッドガードは、各試合後にアルコール消毒を実施し、乾燥させる。なお用具の消毒方法、担当者などは事前に打ち合わせておく。
- (11) リングに関しては、試合ごとにロープの拭き上げを行い、キャンバスに関しては、その日の競技終了後に、拭き上げでの清掃を行う。
- (12) 各グローブ、ヘッドガードなどの用具をどの選手が使用したか、使用記録を残す。